

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

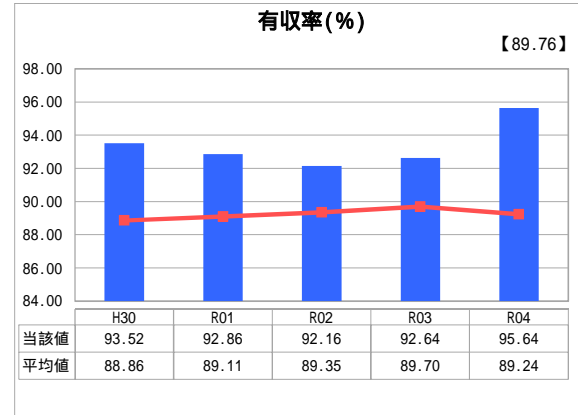
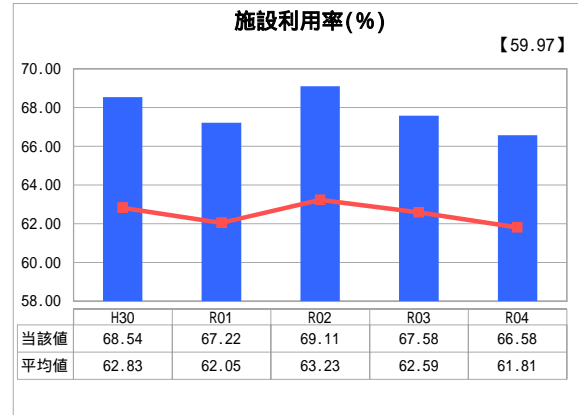
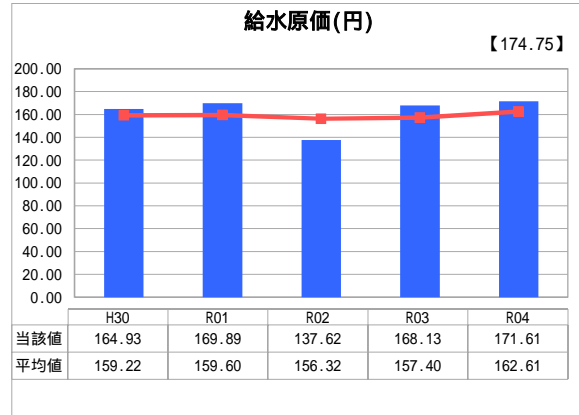
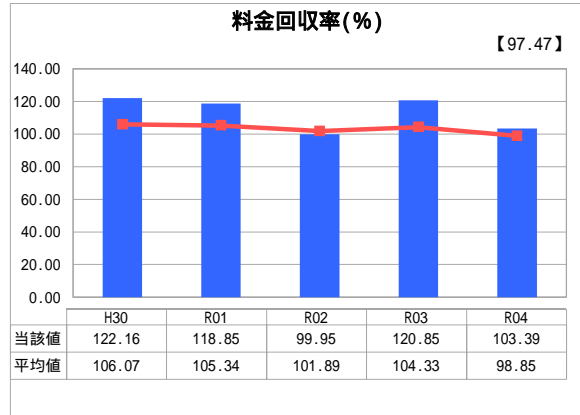
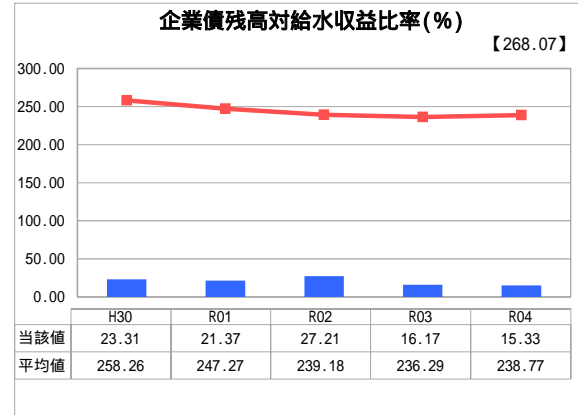
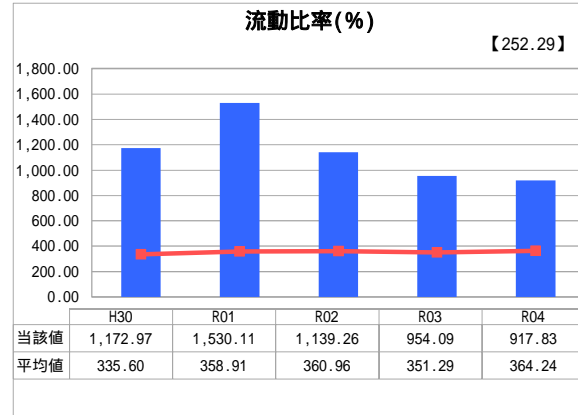
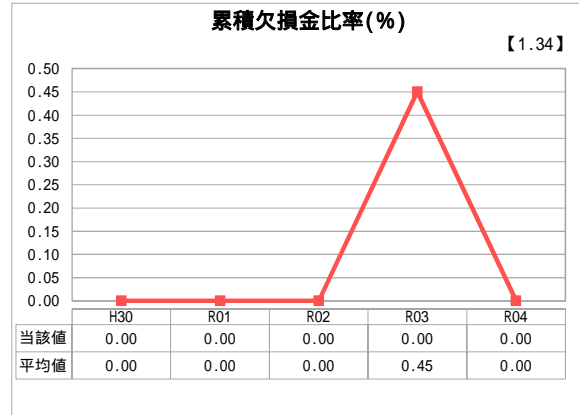
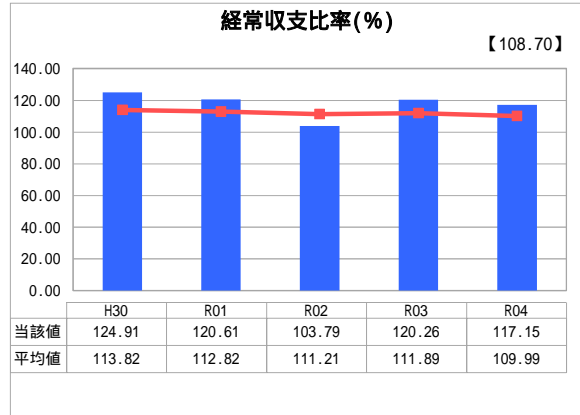
兵庫県 三田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	97.59	99.36	3,025	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
108,387	210.32	515.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
107,052	71.97	1,487.45

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
-	類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

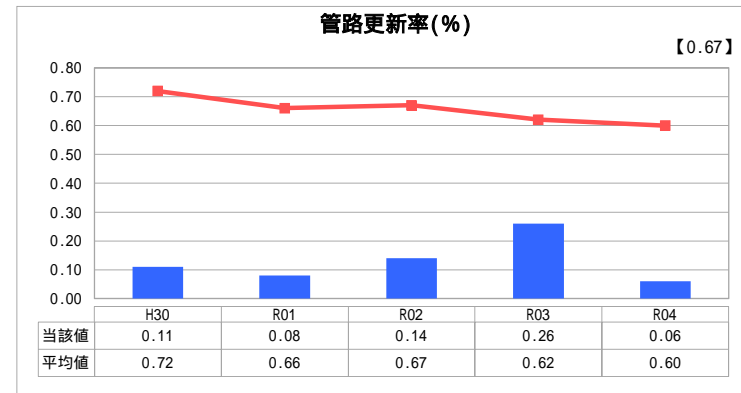
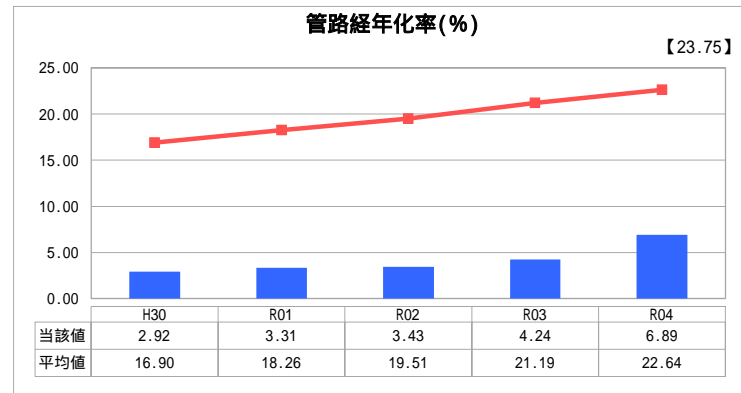
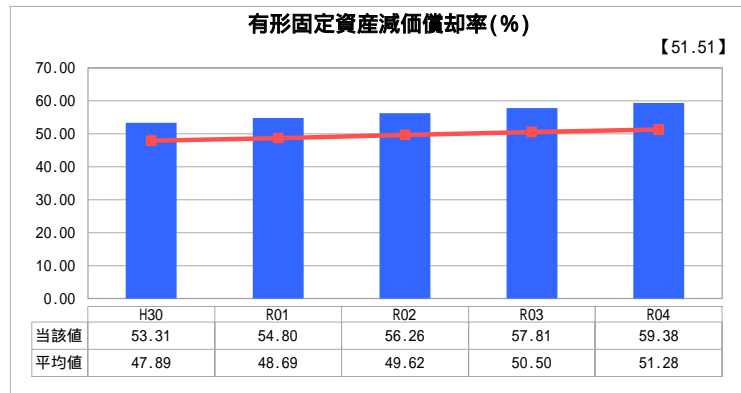
<健全性について>  
 経常収支比率、流動比率については類似団体と比べても高く、黒字経営と安定した支払能力を維持できているものと判断できます。また、料金回収率については、物価高騰支援策として水道基本料金の免除を実施した影響により前年度比で低下しましたが、100%以上を維持し水道料金の原価を回収できています。  
 人口急増に対応するために要した多くの債務を着実に削減した結果、企業債残高対給水収益比率は類似団体と比べ低く、現状は企業債に依存しない事業運営を行っています。  
 給水原価は令和2年度の県営水道からの受水費用の一部免除による低下時を除き、経年比較で大きな変動はなく、今後も引き続き効率的経営に取り組み適正な原価を維持していきます。

<効率性について>  
 施設利用率は類似団体を上回っており、施設の規模は過剰でないと言えます。しかし、給水人口の減少、節水意識の高まりにより使用水量は減少傾向にあります。  
 有収率については類似団体平均を上回っています。漏水調査の実施や老朽管の計画的更新に取り組み、現在の水準の維持に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

比較的新しい管路の多い本市では、管路経年化率は類似団体と比べて低くなっており、法定耐用年数を超えた管路は少ないと言えます。しかしながら、今後必要となる管路の更新需要を踏まえると、管路更新率が低いため更新ペースを高めていく必要があります。  
 また、有形固定資産減価償却率が増加傾向にあることから、施設・設備も含め資産全体としても老朽化が進んでいます。施設・設備は日常点検での状態確認と修繕等により延命化を図っていますが、今後は耐震性等の課題に対応するため更新を計画的に行っていく必要があります。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

事業運営は、多くの指標で類似団体より良好な数値を維持しており、安定的な経営状況と言えます。しかし、人口減少等の影響から使用水量は減少傾向にあり、今後の経営状況は厳しいものになります。現在、第2次三田市水道ビジョンの策定を進めており、経営環境が厳しくなる中でも、この新たな基本計画のもと、将来にわたって持続可能な水道事業運営を進めていきます。